



銭小だより

<学校の教育目標>

えがお・やさしさ・やる気
あふれる 銭小の子

銭小HP



第6号 令和8年9月4日

【重点目標】 みんな笑顔 ～安全・安心な学校～

「2学期が始まりました！」

校長 大山 倫 生

28日間の夏休みも終わり、いよいよ長い2学期がスタートしました。

夏休み中は、潮ねりこみへの参加や、豊足神社の盆踊り大会など、地域の行事に多くの児童や保護者が参加し、楽しいひとときを過ごしました。

また、ご家庭によっては、遊園地や旅行など普段は行けないようなところで楽しんだ方も多かったのではないのでしょうか。

(潮ねりこみ参加→)



さて、8月20日付けで保護者の皆様へ「**学校における2学期以降の指導・支援体制について**」お知らせしたところですが、早速、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

翌日の始業式には、校長から子どもたちに次のような内容で話をしました。

2学期は、学校のルールをしっかりと守りましょう！

「人の話をしっかりと聞く」「時間を守る」「廊下は走らない」など学校のルールはたくさんあります。ルールを守れない人がいると、他の人の迷惑になって、事故や怪我につながり、とても危険です。みなさんが、嫌な気持ちになったり、悲しんだりしないよう、ルールをしっかりと守って みんなが楽しく、安心して勉強ができるように、がんばってください。

昨日、みなさんのおうちの方にお便りを出していますが、どうしてもルールを守れない、先生の言うことが聞けない人は、おうちの人に連絡して引き取りに来てもらいますので、覚えておいてください。

あと、駐車場や坂道では、「緑色」のところを歩いてください。1学期、緑色の道からはみ出して、車に轢かれそうになった人もいました。危険ですので、「緑色」の道を歩くようにしてください。

学校は、皆さんの大切な心と体を守らなければなりません。みんなが笑顔で、楽しく学校生活を送れるよう、2学期もがんばってください。

2学期は、学習発表会や銭小まつりなど、大きな行事がありますので、子どもたちが楽しく学校生活を送ることができるよう、職員一同、取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

学校評価前期アンケート結果と今後の改善方策

7月に実施しました学校評価アンケートへのご協力、ありがとうございました。

以下に、保護者アンケート（回答数 125 件）および児童アンケート（回答数 271 件）の結果と、その分析に基づいた今後の改善方策を報告いたします。

1 本校の強み

（1）家庭の教育的な支援が子供の成長に直結している

① 家庭における朝食摂取への意識と促しが、子供の食事習慣の形成につながっています。

保護者: 94.4%が「朝食を食べるよう促している（そう思う）」

児 童: 89.6%（そう思う 77.1% + 少しそう思う 12.5%）が「毎日朝ごはんを食べている」

② 保護者が我が子の良さを認める姿勢が、子供達の自己肯定感（約 8 割）を育んでいます。

保護者: 89.6%が「我が子に良いところがある（そう思う）」

児 童: 80.4%（そう思う 58.3% + 少しそう思う 22.1%）が「自分には良いところがある」

（2）児童と保護者が学校に一定の信頼を寄せている

① 親子ともに約8割が「学校が楽しい」と感じており、学校生活を肯定的に受け止めています。

保護者: 「楽しく学校生活を送っている」 81.6%（そう思う 54.4% + 少しそう思う 27.2%）

児 童: 「学校は楽しい」 77.9%（そう思う 45.8% + 少しそう思う 32.1%）

② 親子ともに8割以上が学校または教職員の対応を肯定的に評価しています。

保護者: 「連絡・相談への丁寧な対応」 81.0%（そう思う 46.4%、少しそう思う 34.4%）

児 童: 「困ったときに相談にのってくれる」 84.6%（そう思う 65.3%、少しそう思う 19.3%）

2 本校の課題、改善を要する点

（1）「きまり・ルール」の遵守

○ きまりやルールを客観的に捉えることに課題があります。

保護者: 「規範やルールが身に付いている」 86.4%

児 童: 「学校や生活のきまりを守っている」 84.1%

上記の通り、選択肢回答（個人の主観的な捉え）は親子ともに 8 割超が「きまりを守れている」と肯定的に捉えています。しかし、保護者の自由記述（全体の客観的な捉え）には、きまり・ルールの遵守について強い心配と懸念が多数見られました。

学校や社会のきまり・ルールを、主観的に捉えるか、客観的に捉えるかで、その基準が変わってきます。

【自由記述にあった改善を要する点】

- ・ 授業妨害（授業中の立ち歩き、勝手な言動 等）
- ・ 授業中の校内徘徊
- ・ 校内での嫌がらせやからかい
- ・ 暴言や暴力
- ・ Chromebook の不適切利用（ゲーム・動画視聴 等）
- ・ 校外でのマナー低下（ごみのポイ捨て 等）

(2) 家庭における生活および学習の習慣形成

○ 保護者が家庭で強く促しているものの、子供の実践や受け止めとの間にズレが見られます。

① 習慣形成

【生活面】 保護者：「早寝早起きを促している」 そう思う **82.4%**

児 童：「早寝早起きをしている」 そう思う **48%**

【学習面】 保護者：「宿題や音読、家庭学習を促している（そう思う・少しそう思う）」 **92%**

児 童：「音読を毎日 **できていない**（あまり思わない・思わない）」 **47.2%**

② 家庭における学習の時間（目安は、「学年×10分+10分」）

- 平日、休日を問わず「30 分以下」が多数派

平日において学習時間が「30 分以下」の割合は、1 年生が 70.9%、4 年生が 58.5%、6 年生が 59.0% となり、過半数の児童が平日の学習時間を 30 分以内で終えています。

全校の割合	0 分	0～30 分
平 日	5.2%	50.2%
休 日	15.5%	50.9%

- 休日の「学習時間ゼロ」の急増（全学年の傾向）

休日になると、全学年で家庭学習を「全くしない（0 分）」児童が顕著に増えます。特に 1 年生は平日の 7.3%から休日は 25.5%（約 4 人に 1 人）へと急増しており、6 年生も平日の 2.6%から休日は 17.9%へと大きく増加しています。

- 高学年における二極化の兆候

5 年生においては、平日・休日ともに「2 時間以上」取り組む熱心な児童が約 10%存在する一方で、休日に「0 分」の児童も 12.8%存在し、学習習慣の二極化が進みつつあります。

※ 中学校への進学を控える 6 年生においても、平日に 30 分以下しか勉強しない児童が学年の約 6 割に達し、休日に至っては約 7 割を占めるなど、家庭での自立的な学習習慣の確立に大きな課題があることが明らかになりました。

(3) 児童の安全確保

○ 児童の通学や敷地内の通行にともなう安全確保に課題がある。

主に自由記述において、以下のような心配の声が複数見られました。

- ・ スクールバスの利用にかかわる安全指導の徹底
- ・ 冬季間の安全確保（冬期間の除雪・歩道確保、信号機の増設 等）
- ・ 敷地内における一方通行の徹底

3 今後の改善方策

(1) 主観的な規範意識の転換と改善

○ 対話を通じて児童に責任感と当事者意識を養い、客観的な規範意識を育てます。

自由記述において、「トラブルに対して叱る指導は行われるが、なぜそうなったか、そうならないためにどうすべきかという対策案が検討されないため、解決に至らない」というご指摘をいただきました。本質を突いた重要なご意見として、真摯に受け止めております。

今後はよりいっそう、問題が発生した際に単に禁止や叱責を行うのではなく、「なぜその行動が他人に迷惑をかけたのか」「きまりは何のためにあるのか」「次はどう行動すべきか」等、対話を通じて児童自身に考えさせ、納得を促す指導を徹底します。これにより、児童に責任感と当事者意識を持たせるとともに、自らを省みる力を高め、客観的な規範意識を育てるための指導・支援に努めてまいります。

(2) 家庭における生活・学習習慣の形成

○ 家庭の教育支援を活かした連携と授業改善の推進により、望ましい習慣形成を図ります。

朝食の摂取習慣や高い自己肯定感の育成につながる家庭の教育力は、本校の大きな強みです。その強みを基盤として、家庭と「家庭学習の手引き」を改めて共有し、保護者が学習を促しやすいよう、学年に応じた時間の目安や発達段階に応じた学習内容を明確にします。

学校においては、授業の終末に家庭学習への接続を意識したまとめや振り返りを行うなどの授業改善を図り、子供が自主的に取り組みやすくなる具体的な声かけや環境づくりのヒントを提示します。また、継続できた努力を認め、励ますことで、家庭での働きかけが効果を発揮するように支援します。

(3) 通学や敷地内通行にともなう安全確保

○ 地域や保護者の皆様と同じ目線、基準で子供たちを見守る体制を構築します。

学校だよりや連絡アプリ「totoru」を活用し、学校の指導・対応状況を具体的に発信することで、保護者や地域との連携・協力体制を構築します。

- ・ スクールバスの乗車マナーや、冬季における安全指導の内容を具体的に発信します。
- ・ 学校行事や参観日等の機会を捉え、学校敷地内における交通ルールの徹底・周知を図ります。
- ・ 冬季の除排雪の状況や予定など、学校が把握している情報をタイムリーに共有します。

今回のアンケート結果は、本校が多くの温かい家庭に支えられていることを再確認すると同時に、改善すべき教育環境の課題を明瞭にする契機となりました。

すべての児童が、安全に、そして落ち着いた環境で、お互いを尊重し合いながら学べる学校を創ることは、本校教職員一同の願いであり、責務です。

お寄せいただいた声を真摯に教育活動の改善に直結させ、一步ずつ、しかし確実に取組を進めてまいります。今後とも、皆様の変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、もうひとつお願いです！

○ 家庭の関わりにより、子供達に将来の夢や目標を！

保護者: 我が子が「夢や目標をもっている」 そう思う **20.8%**

児童: 「将来の夢や目標をもっている」 そう思う **72%**

今回のアンケートでは、将来の夢や目標に関する項目で、保護者の肯定的回答が3割未満にとどまりました。一方で、自己肯定感の育成に見られるように、家庭の教育支援が厚いことはデータからも実証されており、将来の夢や目標についても、家庭の関わりひとつで子供達の意識がぐっと向上すると考えます。

学校では今後も、キャリア教育を積極的に推進してまいります。ご家庭におかれましても、お子さんの夢や目標について話し合ったり、保護者をはじめとした身近な方が、幼い頃の夢や現在の経験を語る等の機会をぜひ設けてください。

変化の激しい社会において、子どもたちが自らの人生を「舵取り」して歩んでいけるよう、ご支援をお願いいたします。

【お知らせ】

※ 毎月裏面に掲載しておりました月の行事予定は、今月以降、掲載しませんので、別途 totoru にて配信している「月行事・バス運行計画」をご確認ください。